

使命感を持ち困難を 乗り越えて人は強くなる

ゴルフ会員権販売のバイオニアとして、業界に確たる地位を築く桜ゴルフ。
佐川八重子社長は26歳で起業、道なき道を切り開き、
今年創業47年目を迎えます。

山あり、谷ありの人生を経て培った「草分けとしての使命を」という思い。
女性起業家の先駆者にお話をうかがいました。

Text...大澤義幸 Photo...佐藤元樹



株式会社桜ゴルフ 代表取締役社長
佐川八重子さん

Yaeko Sagawa 1944年千葉県生まれ。63年文化服装学院本科修了。東洋ゴルフ、日之出ゴルフを経て、70年桜ゴルフ創業。キャッチコピーは「草分けとしての使命を」。第10回経済界大賞 flower賞(経済界)、第5回中堅・中小企業優秀経営者優秀女性企業家賞(日刊工業新聞社)など受賞多数。ライフワークは女性企業家支援。趣味は、ゴルフ、囲碁、小唄、日本舞踊、社交ダンス。

私がやるという使命感 困難が知恵と活力の源に

ファッションデザイナーの夢を断念し、ゴルフの道に進んだのは21歳のときでした。5年の勤務経験を経て1970年、桜ゴルフを創業し、今年47年目を迎えます。無事生き残ることができたのは、コンサルティングを主眼とした経営方針を貫いてきた結果と思っています。

創業した当時のゴルフ界は、客層はいいのですが、働く人のモラルが低いことが問題でした。意義ある仕事だからこそ「革命を起こすんだ」という思いで起業をしました。

銀行からは「女性経営者にはお金を貸さない」と言われ、また、「前の会社のお客さまも頼れない」という条件の1年目で黒字化、3年目で32億円の売上を記録。条件が悪いからこそ知恵や工夫が生まれ、力が育ったのだと思います。これまで、高度成長、オイルショック、バブル、バブル崩壊と激動の道のりでした。何度か存亡の危機にも立たされ、修羅場も体験しました。人生で1番大きかった出来事は、10年目のゴルフ場事業の挫折です。5億円の返済義

務を負い、清算には14年もかかりました。言葉に表すことのできない試練の日々でした。

しかし、ゴルフという豊かな仕事を通じ、社会的地位の高い方々のけいがい接したことは私にとって大きな財産であり、生きる励みでした。成功よりも失敗のほうがより多くの教訓となっていますが、ゴルフ場経営の挫折による苦勞から、人の心の痛みが理解できる人間になれたと思います。

若い経営者として華々しくデビューしたものの、これまでお祝いの行事をしたことはありません。50周年に向け、お祝いできる日を目標にがんばり続けます。

「女性の味方は女性」 協力し合ってさらなる前進を

会社は銀行に始まり、銀行に終わります。銀行を恋人だと思ってお付き合いすることが大切です。

あとは、「女の敵は女」と言われますが、「女こそが女の味方」と私は考えます。長い経営経験から女性起業家支援をしています。私が感じるのは、仕事のできる女性は厳しくても優しく頼りがいがあるものです。